

第153回教育研究評議会議事要録

日 時 平成29年12月11日（月）14時00分から15時10分まで

場 所 本部棟5階 大会議室

陪 席 千家監事

欠席者 佐藤副学長，武田副学長，肥後評議員，小俣評議員

- ・第152回教育研究評議会議事要録について議決された。

議 題1. デュアルユースに関する本学の取扱いについて

秋重理事から，資料1により，第150回教育研究評議会で学部持ち帰りとなっていたデュアルユースに関する本学の取扱いについて，再度検討した点及び新たに作成した安全保障技術研究の取扱い等について説明があった。

松崎評議員から，安全保障技術研究に関する専門部会の審議の観点として，基礎的研究であることが挙げられているが，どこまでが基礎的研究にあたるのか明確にしてほしいとの意見があった。秋重理事から，応用研究の中にも基礎的なものと応用的なものがあり，このうち大学で応用といわれている研究は基礎的研究の中に含まれると考えている。従って，明らかに応用研究と判断されるもの以外は対象となるとの回答があった。

また，学長から，行動指針によって大枠を決め，基礎的研究に該当するかどうか等の詳細については各研究に応じて対応していきたいと考えているため，自己判断せずに申請してほしいとの回答があり，原案どおり議決された。

議 題2. 数理・データサイエンス教育研究センターの設置について

秋重理事から，資料2により，数理・データサイエンス教育研究センターの平成30年度設置について説明があった。

松崎評議員から，数理及びデータサイエンス教育の必修科目には，既存の必修科目である情報科学をもって対応するのかなどの質問があった。秋重理事から，情報科学は数理及びデータサイエンス教育とは内容が異なるため，統計に関する既存の教養科目を一部廃止し，数理・データサイエンス教育に沿った授業として新たに開講する予定であるとの回答があった。

松崎評議員から，センターには，全学的な数理及びデータサイエンス教育の必修化に対応可能な人数の教員を所属させるのかなどの質問があり，秋重理事から，現在3名の専任教員の採用を検討し概算要求を提出しているとの回答があった。

また，学長から，センターに所属する教員だけではなく，関係する既存の授業を受け持っている教員等も数理及びデータサイエンス教育に携わる予定であるとの回答があった。

総合理工学研究科長から，概算要求が通らなかった場合のセンターの運営体制について質問があり，学長から，近日概算要求の結果がでるため，その結果を受けて検討していく予定であるとの回答があった。

大庭評議員から，数理及びデータサイエンス以外の専門分野においてビッグデータを活用

したいという要望には対応できるのかとの質問があり、学長から、数理と情報以外の分野を専門とする学生を対象に副専攻プログラムを設けており、学生が自身の専門分野と数理・データサイエンスを組み合わせることで教育ができると考えているとの回答があった。

上園評議員から、全学的な数理及びデータサイエンスの必修化に伴い、数学等を苦手とする学生への対応について質問があり、秋重理事から、文系の学生を基準として教育プログラムを構成するように考えているとの回答があり、原案どおり議決された。

報告事項

学長から、報告事項については、「会議の効率的な開催について（申し合わせ）」に基づき特に説明が必要な事項について報告する旨の説明があり、以下について報告があった。

報告事項3「平成30年度大学入試センター試験の実施について」は荒瀬理事から、資料5により報告があった。

報告事項4「免疫精神神経学共同研究講座の設置について」は秋重理事から、資料6により報告があった。

報告事項5「平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果について」は秋重理事から、資料7により報告があった。

報告事項7「情報セキュリティ講習（eラーニング）の受講状況について」は秋重理事から、資料9により報告があった。

報告事項8「『しまね大交流会 2017』実施結果について」は松崎地域未来戦略センター長から、資料10により報告があった。

報告事項10「島根大学支援基金の受入状況について」は藤田理事から、資料12により報告があった。